

## 効果の上がる学習方法を考える

—「不得意科目の勉強方法」「家庭学習の方法」「定期テストでよい点数を取る方法」とは—

開倫塾

塾長 林明夫

**Q 1 : 「不得意科目の勉強方法」は何ですか。**

A : 「復習」に尽(つ)きます。授業が終わったら、その日のうちに必ず復習をすることです。

**Q 2 : では、どのように復習をすればよいのですか。**

A : (1) 授業のあった日には、その日のうちに、学校の教科書、教材、プリント、問題集、授業中に取ったノートを、授業を思い出しながら、もう一度ゆっくりと何回か読んでみることを復習としておすすめします。

読むときは、黙読でもよいのですが、できれば、すべての科目とも少し大きな声を出して読む。「音読」を行い、復習することをおすすめします。

(2) そして、その日の授業の内容がどのような内容であったか、先生の授業を思い出しながらも一度よく考え、「理解」することです。

もし、意味のわからないことばや、読み方のわからないことばがあったら、辞書でその意味や読み方を調べる。計算や問題は、すべてもう一度解いてみることも、復習として欠かせません。

(3) このように復習をされていて、どうしてもよく理解できない内容や、どうしても解けない計算や問題があったらどうするか。よくわからないところまで遡(さかのぼ)って勉強し直すことです。漢字がよくわからなければ、小学 1 ~ 2 年生からやり直す。英語がよくわからなければ、中学 1 年生かせやり直すことが、一番確実で効果的です。

**Q 3 : 「家庭学習の方法」、家庭学習はどのように行えばよいのですか。**

A : (1) おすすめの家庭学習は、三つあります。

(2) ①第一は、「新聞」を毎日 20 ~ 30 分間以上、なめるようにじっくりと読むことです。

②第二は、腰を落ち着けた「読書」を、毎日 30 分 ~ 1 時間以上じっくりと行うことです。

③第三は、次の日の、また、来週、来月、来学期、来年度の「予習」をどんどん行うことです。

(3) この三つを、家庭学習の中心に置くことをおすすめします。

**Q 4 : エッ、新聞を読んだり、読書をしたりすることが家庭学習ですか。**

A : (1) そのとおりです。新聞を毎日 1 面からじっくりと読み、世の中のことを知り、自分で考える力・批判的思考能力を身に着けること。本格的な読書に励み、思慮深さを身に着けること。この二つは、素晴らしい家庭学習です。新聞と読書は、家庭学習の基本中の基本です。

(2) 新聞と読書に毎日親しむことは、すべての科目の基礎・基本である読解力を身に着けることに直結します。教科書や教材、テスト問題を、速いスピードで正確に、また、論理的に読み解くことができます。学校の成績向上はもちろん、入試合格にも直結します。

(3) 難関大学、難関高校、難関中学校の入試を受ける受験生は、受験勉強を始めた日から入

試当日まで、新聞を読み、読書に励むことを、開倫塾では 1979 年の創業以来すべての受験生の皆様におすすめしています。

**Q5:家庭学習では、予習をしたほうがよいのですか。**

- A : (1) 学年が進み、勉強の内容が難しくなればなるほど、予習が必要です。授業の前に何を学ぶのかをよく「理解」してから授業に臨むのと、何の準備もしないで授業を聞くのでは、学習効果は全く異なります。
- (2) 予習は何のためにするのか。予習とは、教科書や教材を予(あらかじめ)め学習し、また、計算を予め解き、問題に予め挑戦し、何がわからないかをはっきりさせてから授業に臨むために行うものです。
- (3) 予習をして自分の力でよく「理解」できた内容は、授業の前に、自分の力で音読練習や書き取り練習、計算・問題練習に励み、すべて身につける、「定着」させることを強くおすすめします。

**Q6:予習でそこまでしたほうがよいのですか。**

- A : (1) もちろんです。勉強に遠慮は一切ありません。予習のできる科目や分野は、誰に遠慮することなく、自分の力でどんどん先の先まで学習し続けましょう。
- (2) 明日の予習が終わったら、あさっての予習を、あさっての予習が終わったら、来週の予習を、来週の予習が終わったら、来月の予習を、来月の予習が終わったら、来学期の予習を、来学期の予習が終わったら、来年度の予習をすることです。
- 教科書や教材、プリント、問題集を手にしたら、その瞬間からどんどん予習をする。授業が始まるまでに、全部の予習をし終える。
- 予習を 1 冊分、全部終え、何がわからないかをはっきりさせてから、第 1 回目の授業に臨む。これが予習です。
- (3) ①幼稚園生が、小学生の内容を予習してもよいように、小学生が中学生の内容を予習しても、中学生が高校生の内容を予習しても、高校生が大学生の内容を予習しても、大学生が大学院生の内容を予習しても、すべてOKです。どんどん予習をしてください。
- ②これは、中学生や高校生もオリンピック、パラリンピックに出場してよいのと、全く同じです。予習に遠慮は一切ありません。予習をすることができるのは、大切な能力です。
- ③大学など高等教育機関の授業は、予習なくして成り立ちません。学校を卒業し、仕事や様々な活動をするときには、予習をするのと同じように、自分の力でゼロから勉強しなければなりません。ですから、高校を卒業するまでに、予習をする能力、「予習力」をぜひ身につけてくださいね。

**Q7:最後の質問は、「定期テストでよい点数を取る方法」です。どうしたらよいですか。**

- A : (1) 答えはただ一つ。「教科書や教材、プリント、問題集、授業のノートをスミからスミまで、一語一句、正確に覚える」ことに尽きます。
- (2) ただ、「スミからスミまで」を成し遂げるには、時間がかかります。定期テストは科目が多いので、1週間や2週間では終わりません。試験の1か月以上前から準備をすることです。
- (3) 3 学期に行われる学年末試験の準備は、できれば冬休み前から、どんなに遅くても、1月に入ったらすぐにスタートしてくださいね。

2017年12月6日記

(宇都宮大学大学院工学研究科客員教授)